

ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2017

秋の日は釣瓶落とし。夕暮れの美しさは一瞬にして過ぎ去ってしまいます。風景に音楽、絵画や文章、身の回りには美しいものがあります。それらを見出すように過ごしてみてもうでしょうか。



11月しもつき (霜月) しもみつき (霜見月) ゆきまちつき (雪待月)

＊＊二十四節気＊＊

りっとう
立冬 7日

朝夕の肌寒さで秋の深まりと冬の気配が感じられる頃です。平野部では紅葉が見頃となります。

しよせつ
小雪 22日

冷たい雨が雪に変わり始める頃です。朝晩の冷え込みが厳しくなり、木々は葉を落とし、陽光も弱まります。

お知らせ

- ・11月下旬、愛媛県立図書館協力図書の入れ替えがあります。現在、県立図書館の本を借りている人は11月13日(月)までに返却してください。
- ・12月11日(月)放課後、読書会を開催予定です。詳細は後日、連絡します。一人でも多くの人の参加を待っています。
- ・12月4日(月)～8日(金) 図書整理を行います。期間中、図書室の利用はできません。



図書委員からお薦めの本

『レ・ミゼラブル』 ヴィクトル・ユーゴー 著

たった1本のパンを盗んだために、19年を監獄の中で過ごすことになったジャン・ヴァルジャン。その生涯を描いている。題名はフランス語で「悲惨な人々」を意味する。しかし、『レ・ミゼラブル』の織り成す物語は、必ずしも悲惨なものではない。そこに描かれているものは、最も大切なもの、すなわち愛である。19世紀初め、フランス革命時期が舞台のこの作品は、ミュージカルにもなっている。詩人、ユーゴーの紡ぐその世界を、本でもミュージカルでも堪能していただきたい。

(204 二宮)

[1] 平成 29 年度第 2 回図書委員会主催図書館読書会のお知らせ

日時 平成 30 年 12 月 11 日 (月) 放課後

(校内マラソン大会がこの日に来たら 15 日 (金) に)

場所 本校図書館

テーマ 宮沢賢治『オツベルと象』(各種文庫にあります。)

[2] 平成 29 年度読書感想画コンクール課題図書

『駅鈴 (はゆまのすず)』

久保田香里・作 坂本ヒメミ・画 くもん出版 1,728 円 (税込み)

『スピニー通りの秘密の絵』

L・M・フィッツジェラルド・著 千葉茂樹・訳 あすなる書房 1,620 円 (税込み)

『青い目の人形物語 2: 希望の人形 日本編』

シャーリー・パレントロー・作 河野万里子・訳 岩崎書店 1,836 円 (税込み)

『スマイル!: 笑顔と出会った自転車地球一周 157 ヲ国、155,502km』

小口良平・著 河出書房新社 1,404 円 (税込み)

『人はなぜ星を見上げるのか: 星と人をつなぐ仕事』

高橋真理子・著 新日本出版社 1,944 円 (税込み)

薦める本

『宮沢賢治全集』全8巻 ちくま文庫

『銀河鉄道の夜』（童話。第7巻に入っている。）

ジョバンニはいじめられている。ジョバンニにはお父さんもいない（どこかに行っている）。カンパネルラだけがたった一人、ジョバンニを分かってくれる友達だ。ある日気がつくと、ジョバンニはカンパネルラと一緒に（いっしょ）に、銀河鉄道に乗って宇宙を旅しているのだった。

そこでジョバンニとカンパネルラは色々な人たちを見る。・・・そしてジョバンニは言うのだ。「僕もうあんな大きな暗（やみ）の中だってこはくない。きっとみんなのほんたうのさいはひをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んで行かう。」カンパネルラは答える、「あゝ、きっと行くよ。・・・」ジョバンニは再び言う、「カンパネルラ、僕たち一緒に行かうねえ。」(p.293)

だが、その次の瞬間（しゅんかん）カンパネルラの姿は、消え、ジョバンニはたった一人取り残される。ジョバンニはひとりぼっちになってしまった。

・・・気がつくと現実に戻っていた。カンパネルラは友達を救けるために川に入って溺（おぼ）れて死んだとジョバンニは聞く。

宮沢賢治が考えていた別のプラン（第三次稿）では、博士が登場し、説明をしてくれる。・・・愛する人と一緒に行こうとみんなが考えるが、誰も一緒には行けない。そして本当は誰でもがカンパネルラだ。だからお前はあらゆる人の一番の幸福を探しみんなと一緒に早くそこに行くがいい。そこでばかりお前は本当にカンパネルラと一緒にどこまでも行けるのだ。ごらんあそこにプレシオスが見える。お前はあのプレシオスの鎖（くさり）を解かなければならない・・・と。

(p.553~p.555) (やや詳しい注：プレシオス＝プレアデス星団。旧約聖書ヨブ記では神がヨブに「お前はプレアデスの鎖を結ぶことができるか」と問いかける。仏教徒である賢治はこれを踏まえて「プレシオスの鎖を解かなければならない」と書いたのかもしれない。)

この話を宮沢賢治は十年近くも考えては書き直したと言われている。宮沢賢治作品の中で最も有名な作品の一つであると同時に、宮沢賢治を理解する上で最も重要なカギを秘めた作品でもある。

賢治の最愛の妹トシが死んで賢治の悲しみは深かった。詩「永訣（えいけつ）の朝」（高校2年生で学習する）をはじめ『手紙』『ひかりの素足』などなどで愛する人を失った悲しみを賢治は作品として残している。同時に、そこからどう考え生きていくかをも。

「どこまでも一緒に行く」はずだったカンパネルラを失い、一人取り残されたジョバンニは、しかし、「あらゆる人の一番の幸福」を探しにあらためて立ち上がらなければならない。誰でもたった一人で、大きな悲願を抱いて立ち上がってゆく。悲しみの向こう側にあるものを知っていた賢治は、もう一度こちら側に帰ってきてこれらの作品を私たちに書いて見せたのであろうか。子どものとき読み、十代から二十代で読み、大人になってまた読みたい一冊である。

*宮沢賢治（1896~1933）：岩手県出身。詩人、童話作家、農業指導者、宗教家。

(安井)

